

「新年度に際して」球春



総合施設長 吉澤 善明

四月一日、新たな生活が始まりました今日、この日、そして、節目の行事が続いた二週間、皆さまは何を思われましたでしょうか。

真新しい、それは大きな、大きなランドセルに背負われているように見えますが、一生懸命に歩を進める姿を優しく見守る上級生たちの眼差しに人の心の温かさとも何とも言えない、ほのぼのとした嬉しさを覚え、その様子を心から笑顔で見送られた方もいるのでしょうか。

厳しいという生易しい言葉では語ることも出来ない「就活」を乗り越えた新社会人の颯爽（さつそう）として凛々（りり）しさを漂うなかにも緊張と不安が抑えきれない姿に働けることへの感謝を忘れずに頑張れと励められた方もいるのでしょうか。

四月一日、新年度は全ての方の新たな生活が始まる日であり、その一歩を踏み出す日です。そのような大切な日の心構えとして「新たな気持ちで」「初心に戻り」と言われますことは本当に大切で少し素晴らしいことだと思います。

私も、「心を新たに」今年度の法人としての取組みの考え方、基本方針をお伝えいたします。ただ、次年度以降も節目として四月一日は迎えるつもりですが、基本方針は将来、未来に渡り変わることのない松波福祉会役員全て

の姿勢としていかなければならないと思っています。その姿勢は次の通りです。

私たちのすべての取り組みは、法人理念の「基本的人権の尊重」に少しでも近づくことにつながっています。そして、取り組みは、すべての職員が「共に考え、作り上げた」と実感できるものでなくてはなりません。

それは、一人ひとりの職員が、自らの意思により主体的な取り組みを通して、法人理念に「歩でも近づけたときに「働きがい」「やりがい」と「成長」が体感、実感できるようにすることです。このことを本今の姿勢、伝統としていくためには、まず、「基本的人権」「共に」「自らの意思」「働きがい」「成長」を意識することです。私は、辞令交付式の際、この意識の在りようを伝えるために二十年ぶりに春の選抜に登場した土佐高校の試合のことを伝え、共に、との思いを語りかけました。

すでに、春の日は西へと移り浜風が寒ささえ運んできそうな、日曜日の第二試合、対戦高校は地元でもない浦和学院にも関わらず多くのファンでスタンドは埋まりました。土佐高校と言えば白地に校章だけの歴史の重みを感じるユニフォームでの全力疾走で知られています。走り出してから止まるまで、肉離れでもしないかと思うほどです。全力疾走こそが土

佐高校野球ということ球児たちが心から、憧れ、愛して入部し、自らの意思で楽しんでいくのかのように、しかし、そのことは、常に、しっかりと意識を持ちながらフィールドを駆けているように映ります。本当に、脈々と受け継がれてきた、そして、今も生きている本当の伝統だと心から思えます。

観客には、世の中、良いことはなく、不条理なことばかりと思っている方も多いのでしょうか。本当に純粋で爽やかですが凛とした球児の姿を一服の清涼剤を求めるがごとく、気づくと甲子園のスタンドで一球ごとに声を送っている自らに驚いていた方も多いのではとの勝手な解釈をしながら最後まで観戦いたしました。初優勝した対戦相手に0-4と惜敗でしたが両校への心が温まる、大きな拍手は、なかなか、収まることはありませんでした。

そして、土佐高野球の伝統のごとく、心底、法人の方針を役員員の全ての揺るぎない姿勢、伝統にしていきましようと思え、話を閉じました。

何を今更、そして、甘いことをと、仰られる方もおられると思います。ただ、一つの意識に纏まった鋭く、強い集団としていくためにはどうでしょうか？ いずれにしましても、その答えは私たちが導きだしていかなければならないということだと思います。

役員一同、心を一つにして今年度も精励して参ります。関係各位の変わらぬ、ご指導とご鞭撻を心よりお願いいたしまして大変、失礼ではございますが新年度のご挨拶とさせていただきます。